

[花き部門]

1. 夏秋小ギクの電照抑制栽培における再電照による開花微調節方法

[要約]

夏秋小ギク「はるか」及び「すばる」の電照抑制栽培において、計画より早期に発蕾した場合、発蕾時から再電照を10日間行くと開花を4～6日程度抑制できる。再電照期間が長いほど、側枝数及び花蕾数が減少するが、10日間では影響が少ない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター 農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

近年、電照による開花抑制効果が高い夏秋小ギク品種が育成され、電照を用いた計画生産が概ね可能になってきた。しかし、電照栽培においては開花予定日の約2か月前に電照を終了するため、電照終了後の気象条件によって開花が数日前後することがある。このため、生産者からは発蕾の早晚を確認した後に実施できる開花微調節技術の開発が求められている。そこで、発蕾時からの再電照による開花抑制技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 「はるか」では、発蕾時からの10及び15日間の再電照によって、開花が3.5及び4.3日遅くなる（表1）。
2. 「すばる」では、発蕾時からの10及び15日間の再電照によって、開花が6.1及び6.8日遅くなる（表1）。
3. 再電照日数が長いほど側枝数及び花蕾数が減少するが、発蕾時からの10日間の再電照では減少程度が低い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 白熱灯を用いた、深夜4時間の暗期中断で再電照を行った結果である。
2. 半数の茎において、肉眼で蕾が確認できた日を発蕾日とする。
3. 電照による開花抑制程度が高い「はるか」及び「すばる」を用いた結果であり、再電照による開花抑制効果は品種によって異なる。他の品種については同様の試験を実施する必要がある。
4. 発蕾が遅延する場合には、頂花破蕾時からジベレリン100ppm液を散布（2回以内）することによって数日の開花促進が期待できる。

[具体的データ]

表 1 再電照開始時期及び期間が小ギクの
開花日及び切り花形質に及ぼす影響

品種	再電照 開始 時期	再電照 期間 (日)	平均 開花日 (月/日)	開花 遅延 日数 (日)	切り 花長 (cm)	側枝 数	花蕾 数	花房 幅 (cm)
はるか	発蕾時	5	8/13	1.3	93	13.5	16.1	8.5
		10	8/15	3.5	97	11.5	13.1	7.4
		15	8/16	4.3	96	10.9	12.4	7.5
	発蕾 1週後	7	8/14	2.2	94	10.9	12.2	7.5
		14	8/13	1.5	96	10.6	11.6	7.5
		21	8/14	3.0	97	10.3	11.6	7.7
	無処理		8/11	—	92	13.5	15.3	8.0
すばる	発蕾時	5	8/10	3.0	89	14.2	29.6	10.3
		10	8/13	6.1	94	14.3	30.0	10.8
		15	8/14	6.8	94	12.5	22.6	9.7
	発蕾 1週後	7	8/8	1.4	94	12.2	18.6	8.5
		14	8/10	3.6	94	12.3	20.8	9.7
		21	8/9	1.8	92	12.5	18.5	8.6
	無処理		8/7	—	90	14.9	33.6	10.0

注) 2013年5月7日定植、5月17日摘心、定植時から6月13日まで深夜4時間の暗期中断、50%発蕾日は「はるか」では7月5日、「すばる」では7月6日

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した夏秋需要期キク安定開花調節技術の開発

予算区分：受託（気候変動プロ）

研究期間：2010～2014年度

研究担当者：森義雄、藤本拓郎